

ニュースレター

SMM 2018 国際海事展参加事業の実施経過について

平成 30 年 9 月 12 日
日本船舶輸出組合

本組合は、9 月 4 日（火）から 7 日（金）までドイツ・ハンブルクの Hamburg Messe において開催された SMM 2018 国際海事展（主催：Hamburg Messe und Congress GmbH）に、組合員造船会社 4 社と共に参加した。

今回で 28 回目を迎えた同海事展には、過去最大となる 69 ヶ国、2,289 社の出展があり、入場者数は約 50,000 名（いずれも展示会事務局発表）、展示会場の広さは前回同様 9 万 3000 m²（合計 13 ホール）と盛況であった。また、今回は“Green Shipping”や“Digitalization”をテーマとするほか、“Trends in SMMart Shipping”をモットーとし、様々なスタンドでタッチスクリーンやシミュレーター、VR（バーチャル・リアリティ）ゴーグルなどを使った工夫した展示が見られ、セミナーが数多く開催された。

本組合の出展は、2014 年から 3 回目となり、造船会社 4 社（ジャパンマリンユナイテッド、三菱造船、名村造船所、大島造船所）による統一展示方式を採用した「日本造船スタンド」を形成した。各社はそれぞれのブースで積極的な PR 活動を展開し、来場した多数の欧州船主などに対し各社が開発した新船型や高環境性能を掲げたエコシップ、次世代船舶等を中心に日本造船業の技術の優秀性をアピールした。それにより、彼我の交流の促進を図り、今後の船舶輸出の促進に寄与するとともに、日本造船業のプレゼンスを高める上で多大の成果を挙げることができた。

また、会期中に在ハンブルク総領事館加藤喜久子総領事が本組合スタンドを訪れ、各社アテンダントにより、展示している船舶模型や開発船型の紹介等を行なった。

その実施経過は、下記の通りである。

記

1. 展示会への出展会社

- ・ 69 ヶ国から 2,289 社が出展した。

なお、そのうちカナダ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、

ギリシャ、英国、インド、イラン、イタリア、日本、韓国、クロアチア、オランダ、ノルウェー、オーストリア、パナマ、ポーランド、ロシア、スウェーデン、シンガポール、スペイン、トルコ、米国、UAE、中国など 26 ヶ国がナショナル・パビリオンを形成した。

2. 入場者数

- ・約 50,000 名が入場した。(展示会事務局速報値)

3. 開会式等

- ・9月3日(月)18時より、ハンブルク市庁舎において、SMM 2018 のオフィシャル・オープニング・セレモニーが開催され、ハンブルク市のピーター・ティッシェンティシュラー市長のほか、IMO のキータック・リム事務局長らがスピーチを行った。

4. 本組合の展示

- ・Hall B2 (造船ホール) に小間面積 109 m²を確保し日本造船業のアピールを行った。
- ・本組合員企業 4 社が出展した。
- ・各社ブースにおいては、コルトンを活用し、各種船型の最新鋭船舶模型等を展示、ブース内に設置した液晶モニターにより出展各社の PR ビデオを放映するなどにより、それぞれ自社の製品、技術、CI 等について PR を展開した。また、出展各社から派遣されたアテンダントが、終日来場者に対し説明、紹介等を行った。
- ・前回 2016 年出展時とは異なる造船ホール B2 の好立地な場所へスタンドを移したことにより、本組合スタンドへの来場者は前回に比して飛躍的に増え、総勢 700 名超となった。

以 上



